

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 361 号	氏 名	根来 慎太郎
審査委員	主査 上月 康則 副査 武藤 裕則 副査 中野 晋		
学位論文題目			
建設会社の災害時事業継続力高度化に関する実践的研究			
審査結果の要旨			
<p>本論文は建設会社の災害時事業継続力を高度化するための方法論について申請者自らの実践も含めて検討したものである。</p> <p>はじめに、国や地方自治体の認定制度で要求されている建設業BCPと本来のBCPの相違点を指摘し、建設会社が策定・運用すべきBCPの有り方について考察を行っている。その上で、申請者が属する建設会社で実践した平常時の営業活動等でも役立つBCPの運用事例について提示し、その有効性について論じている。</p> <p>次いで、平成30年7月豪雨で市民生活の早期再建のために、新たに導入された公的な災害対応支援策の小型重機のPUSH型派遣について実態調査を行い、公共インフラの復旧に加えて、市民生活再建の点で建設機械レンタル会社、小型重機オペレーターが早期災害復旧に果たした役割や課題について分析した。国土交通省主導で59台の小型重機が宇和島市など4県8自治体に派遣され、家屋内の堆積泥の排出、生活道路の啓開などに有効に使用されたが、事前の制度設計が行われていなかったため、管理方法、重機オペレーターの人員不足、費用弁済方法、公共インフラの復旧にあたる建設会社と重機の取り扱いなどの問題が生じており、運用管理体制と整備が急務であることが示された。</p> <p>建設会社の災害時事業継続力を高める方法の1つとして、企業間連携の有効性についても議論が行われ、徳島県を中心として進められている「なでしこBC連携」の取組を取り上げ、連携に参加する企業の社員、経営者層を対象にしたアンケート調査から、建設会社間の平常時からの連携の重要性と効果について分析が行われた。</p> <p>本論文は建設会社の災害時事業継続力を高める上での方法論について整理するとともに実践を通して、提案する高度化手法の妥当性について明らかにすることに成功している。これより本論文は博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。</p>			